

さいたま市長10月定例記者会見

平成30年10月16日(火曜日)

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社、読売新聞さん、進行よろしく願いいたします。

○ 読売新聞 10月の幹事社を務めます読売新聞と申します。よろしく願いいたします。

それでは、本日の記者会見内容について市長から説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

先日、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けました、埼玉県の都市ボランティアの募集結果が公表されました。定員を大きく上回る応募があり、そのうち、さいたま市からは3,140人の方が申し込んでいただいたとのことであり、大変嬉しく思っているところでございます。

これまで、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムやさいたま国際マラソンでも、多くの市民の皆様ボランティアとしてご協力をいただいております。

これらの取組を経まして、本市にもボランティア文化が根付いてきたことが感じられ、とても感慨深いものがございます。

大会に向けまして、引き続き本市のおもてなしの準備を進め、大会期間中、ボランティアの皆様とともに来訪者にさいたま市の魅力を伝えていきたい、このように考えております。

それでは、議題に移らせていただきます。

市長発表：議題1「さいたま市文化賞・市政功労賞受賞者が決定しました」

まずは、議題1「さいたま市文化賞・市政功労賞の受賞者が決定しました」についてご説明させていただきます。

文化や芸術またはスポーツの分野において顕著な功績のあった市民または市にゆかりのある方に対して、「さいたま市文化賞」を贈呈しております。

これは、平成16年から実施し、今年度で15回目となるものでございま

す。昨年度までの受賞者は41名、旧市での受賞者は53名でございます。

それでは、今年度受賞されます3名の皆様をご紹介します。

まず、お一人目でございますが、石原進様でございます。110年を超える歴史を持つ日展におきまして、二度にわたる日展特選を受賞されました。また、日展日本画部の春季展である日春展においても各賞を受賞されるなど、今日に至るまで日本画の継承と発展に多大な貢献をされております。

また、さいたま市文化協会理事長、またさいたま市美術家協会の評議員としても活躍され、さいたま市美術展覧会では、招待作家として2002年以来、毎年作品を出品いただいております。

後進画家の育成にも大変熱心に取り組み、本市の芸術文化の振興に大きく寄与された方でございます。

お二人目でございますが、落合弘様でございます。サッカー選手として浦和市立高等学校、現在のさいたま市立浦和高等学校で国民体育大会2連覇、また日本代表ではワールドカップ予選など、国際Aマッチ63試合に出場されました。当時の日本サッカーリーグでは、年間ベストイレブンにも10回輝くなどの功績を残された方であります。

また、引退後は、浦和レッドダイヤモンドズでヘッドコーチ、またスカウト担当等を歴任されたほか、浦和レッズハートフルクラブのキャプテンとして、長年にわたりましてサッカーを通じた子供たちの健全育成に大きく寄与されてこられた方でございます。

続きまして、3人目でございますが、林一夫様でございます。平成18年から現在まで、さいたま市バドミントン協会会長として活躍をされております。

バドミントンの聖地づくりに取り組み、バドミントン日本リーグ（現バドミントンS/Jリーグ）さいたま大会など、国内主要大会の市内での定期開催を実現されました。

また、さいたま市体育協会副会長としても活躍され、平成30年6月に退任されるまで、通算14年の永きにわたりまして同協会の要職を務められ、本市のスポーツ振興に寄与された方でございます。

次に、「市政功労賞」でございます。この「市政功労賞」は、市の公益の増進に寄与、または市政の振興発展に尽力され、その功績が特に顕著である

方に対して贈呈をしている賞でございます。

これも平成16年から実施をし、今年度で15回目となります。昨年度までに573名及び22団体の受賞者がおられます。旧市（旧浦和と旧大宮）での受賞者は145名でございます。

今年度は、地方自治、コミュニティ、保健・福祉、環境・経済、消防・防災、教育・文化・スポーツ、寄附功勞の各分野におきまして、27名の方々に贈呈をさせていただきます。

今年度の受賞者につきましては、お手元に配付しております資料（記者発表資料）のとおりでございます。

文化賞、そして市政功勞賞の表彰式についてご案内を申し上げます。今年度は、平成30年11月1日木曜日、午前10時からホテルブリランテ武蔵野におきまして開催いたします。

ぜひとも報道関係の皆様には、取材をしていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

市長発表：議題2「J:COM presents 2018 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムを開催します」

続きまして、議題2でございます。今年度で6回目を迎える「J:COM presents 2018 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」についてご説明させていただきます。

いよいよ来月4日日曜日、「J:COM presents 2018 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」をさいたま新都心駅周辺において開催いたします。

今年も前日の11月3日土曜日には、一般の方にもお楽しみいただける前日イベントを開催します。

また、テレビ放送はJ:COM、またJ SPORTSで生中継をする予定でございます。また、テレビ東京系列6局ネットで当日に放送される予定となっております。

さらに、テレビ埼玉では11月2日金曜日に事前の告知番組、またFM NACK 5では事前告知スポットCMを放送していただく予定となっております。

それでは、出場選手についてご紹介したいと思います。今年も大変豪華な72名の選手が出場されます。

海外招聘の注目選手は、今年のツール・ド・フランスで初のマイヨジョーヌ、個人総合優勝に輝きましたゲラント・トーマス選手、そのほかは先日開催されましたUCIロード世界選手権で初優勝を飾りましたアレハンドロ・バルベルデ選手、またツール・ド・フランス個人総合優勝をはじめ、数々の大会で優勝経験のありますヴィンチェンツォ・ニバリ選手、そしてツール・ド・フランスで区間3勝の記録を持つアレクサンドル・クリストフ選手など、豪華メンバーがさいたまに集結します。

また、さいたまクリテリウムでもおなじみとなりました人気選手、世界屈指のスプリンターでもありますマルセル・キッテル選手も出場します。

日本人では、海外チームで活躍する別府史之選手、また新城幸也選手が、今年もツール・ド・フランスジャパンチームとしてさいたまにやっけてまいります。

続きまして、国内参加選手についてご紹介をいたします。今年の全日本選手権ロードレースチャンピオンの山本元喜選手が出場されます。また、パラサイクリング選手では、今年の世界選手権ロードレースで優勝しました野口佳子選手が2年連続の出場となります。

また、今年の9月に彩湖で開催いたしました予選会を勝ち抜いたアマチュアの3選手が出場されます。藤田涼平選手、それから田上萌々子選手、そして氏原真之介選手でございます。全員が埼玉県の地元の選手でございます。

今大会も熱い戦いが繰り広げられ、皆さんに感動と興奮を届けてくれるものと期待をしています。

コースは、昨年と同じレイアウトとなっております。何ととっても最後の直線300メートルでのスプリント勝負が最大の見どころとなります。

また、観覧エリアの開放は10時からとなります。観覧場所によって、さまざまな楽しみ方ができます。

今年は、新設しました一般観覧エリア、フィニッシュライン手前の東側で、ちょうどフィニッシュ直前、白熱したゴールスプリントをお楽しみいただけるように設定したエリアでございます。ぜひこちらのほうでご覧いただければと思います。

また、周辺の交通規制は、開始が朝の8時30分、また解除は18時と18時30分の2段階で行わせていただきます。

同日開催イベントの「さいたまるしえ」は、昨年と同じ場所、けやきひろばで開催いたします。また、「サイクルフェスタ」についてはメイン会場の、西側の旧中山道に面した、この場所で開催をする予定でございます。

競技種目についてでございますが、昨年と同様スプリントレース、タイムトライアルレース、クリテリウムメインレースの3つが行われます。

スプリントレースにつきましては、海外招聘選手、国内参加選手15名が参加します。1グループ3名もしくは4名で競い合ひまして、ゴールに先着した者を勝者とするレースでございます。各グループで1位になった4選手で決勝レースを行い、優勝者を決めることとなります。

残り1キロメートルまでのパレードランの後、本当のスタートが切られるということで、全力疾走は短時間しか継続できないため、戦略を考えながらどこでスパートをかけるのか、その駆け引きが見どころでございます。

また、チームタイムトライアルレースでは、海外招聘選手、国内参加選手の各チームが3人で1チームを編成し、1チームごとにスタートしてゴールまでの所要時間を競うレースとなります。3人がポジションを入れ替えながら隊列を組み、揃いのジャージが目の前を通る様子をぜひご覧いただきたいと思っております。

次に、同日開催イベントについてご紹介いたします。

まず、「サイクルフェスタ」でございますが、11月3日13時から、また11月4日10時から開催いたします。両日とも17時までということになります。

さいたま市の自転車政策であります「さいたまは一と」の柱、「たのしむ」、「まもる」、「はしる」、「とめる」の4つの視点をテーマに、ブースの設置や体験コーナー、またステージなどを設けておまして、自転車ファンのみならず、小さいお子様からご年配の方々まで、多くの方が楽しめるイベントとなっております。

また、「さいたまるしえ」につきましても11月3日、4日、両日とも10時から17時まで、けやきひろばで開催いたします。

「さいたまるしえ」では、「さいたま市場」、「フランス市場」、また「さいたまクリテリウム協賛企業ブース」の3種類のブースが出展しまして、さいたま市のご当地グルメやフランス産の食材を使った飲食物など、多種多様な

食を楽しむことができるようになっております。両イベントとも、11月3日、(大会の) 前日から開催いたします。さいたま新都心エリア全体が大変盛り上がりと考えております。

また、大会当日には、さいたま新都心駅周辺のコース以外でも、大会を盛り上げるためにサテライト会場を設けます。パブリックビューイングを5カ所で実施いたします。市内については2カ所、コクーン2にあるコクーンひろば、それから、もう1カ所が浦和駅東口市民広場北側で行います。

また、市外の3カ所につきましては、鴻巣駅東口のこうのすシネマ、また東京スカイツリータウン・ソラマチ内「J:COM Wonder Studio」、そしてジェイコムショップの各店舗において行わせていただきます。

会場に直接来ることができない方も、レースをお楽しみいただけます。

11月3日の前日プログラムは、昨年度から一般の方々にも開放しております。多くの方々が楽しめる内容となっております。

オフィシャルサポーターズヴィレッジ内のメインステージにおいて実施いたします。まずは、13時15分からJ SPORTSの協力によりまして、ツール・ド・フランス2019コースプレゼンテーションを実施いたします。ツール・ド・フランス2019の本大会のコースを紹介いたします。

また、14時から、さいたまクリテリウムに出場する選手がメインステージに登場する、チームプレゼンテーションを実施いたします。多くの方に豪華な選手たちをご覧いただけます。

また、15時30分からは、さいたま市内交流会を開催いたします。毎年、海外選手が本市の文化や日本文化を体験し、その様子を世界に向けて発信する企画でございます。昨年は、本市のうなぎ文化体験と殺陣のパフォーマンスの体験を実施いたしまして、世界185の国と地域に配信されました。今年は、和太鼓の体験と野球体験を通じまして、プロスポーツ選手間の交流プログラムも実施する予定であります。世界のトップライダーがリラックスして楽しんでいる、レースのときとは違った表情が見られる、よい機会でもございます。ここでは、埼玉西武ライオンズのOBの平尾博嗣さんにお越しいただきます。

また、今回は大会アンバサダーといたしまして、ツール・ド・フランス総合優勝をはじめ3大ロードレースの全てで総合優勝に輝くなど、世界トップ

レベルの選手として活躍いたしましたアルベルト・コンタドール氏の来日が決定しております。

大会当日は、オフィシャルサポーターズ個人のプラチナカテゴリーの特典、バックヤード見学ツアーにゲストとして参加していただくほか、さまざまなプログラムにご参加いただき、大会を盛り上げていただくことになっております。人気の高いコンタドール氏の大会アンバサダー就任によりまして多くの方の来場が期待でき、ロードレースの普及に貢献できるものと考えております。

最後に、大会まで残すところ2週間、さいたまクリテリウムファンの期待に応えられるよう準備を進めてまいりたいと思います。

ぜひ多くの方々に会場まで足を運んでいただき、そしてこの生の国際的な自転車レース、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムをぜひご覧いただきたいと思います。皆様のご来場を心からお待ちしております。

市長発表：議題3「第4回東日本連携・創生フォーラム in さいたまの開催について」

続きまして、議題3「第4回東日本連携・創生フォーラム in さいたまの開催」についてでございます。

東日本連携は、日本の半分を占める東日本という大きな地域を対象にした地方創生でございまして、さいたま市が東京圏と東日本との対流拠点となるための重要な施策であると考えております。それぞれの地域の特徴を生かしていくとともに、本市の連携交流機能の集積強化も図ってまいります。

まず、フォーラムの開催概要についてご説明させていただきます。

東日本地域の新幹線沿線自治体に出席いただきますこのフォーラムは、11月5日月曜日、パレスホテル大宮で開催をいたします。連携都市は全部で25都市、フォーラムへの参加については、現在出欠を確認中となっております。

新規の参加は、南魚沼市、また会津若松市の2市となっております。フォーラムの構成は、14時から首長会議を開催し、基調講演、また議題についての議論などを行う予定でございます。その後17時30分からは、連携都市の首長の皆さんにご参加いただきまして、交流会を開催いたします。

まず、基調講演でございますが、講演者は日本総合研究所の藻谷浩介さん

でございます。演題は「オリパラ後に続く東日本広域連携―何を生かし何を
目指すのか?―」というテーマでご講演をいただきます。

2020年開催の東京オリンピックの後を見据えまして、東日本連携とし
てどういった取組が必要なのかなどのお話をさせていただきたいと考えてお
ります。

藻谷氏は、過去3回に引き続き、今回の会議のファシリテーターもお願い
しております。藻谷氏は、平成合併前の3,200市町村の全てを訪問し、
地域特性を多面的に把握されている方でもあります。2000年ごろより、
地域振興に関しまして精力的に研究、著作、講演を行うなど、まちづくりに
精通されている方でもございます。

次に、フォーラムについてご案内申し上げます。フォーラムの議題は、大
きく二つでございます。

一つ目の議題、オリンピックを題材とした連携事業では、2020年開催
の東京オリンピックに照準を合わせまして、東日本の認知度を向上させ、交
流人口の増加を目指すための2つの事業を議論してまいります。

1点目は、ルート研究会におけるターゲット設定と共同PR方法について
でございます。効果的に事前PR活動を実施し、旅行先としての認知度、関
心度の向上につなげていきたいと考えています。

また、もう一点は、連携都市からご提案をいただきました3つの事業につ
いて議論してまいります。まずは、函館市からご提案いただきました既存イ
ベントの開催時期、集約化及び交通パスとのタイアップ企画でございます。
どこに行っても何かをやっている、また特典があることをインセンティブに
して、東日本各地への誘客を目指していくものでございます。

また、新潟市からご提案いただきました日本酒共同PRイベントの開催、
外国人が多く来日するオリンピックに合わせて開催することで、日本酒の販
路拡大等を目指すものでございます。

また、大会期間中の取組について検討し、メディア、来場者のインフルエ
ンサー化を図り、大会終了後の観光客増へつなげてまいりたいと考えていま
す。

二つ目の議題は、スポーツコンテンツを活用した連携についてございま
す。これは、上田市からご提案いただいたものでございます。東日本連携各

都市では、標高差のある急なルートをフィールドに、軽さと速さを追求する登山でありますスカイランニングであるとか、舗装されていない、主に山などの自然の中を走る、いわゆるトレイルランの大会などが開催されております。

これらの開催都市が連携し、PRに取り組んでいくことで、新たな参加者の獲得と各都市間の対流を創出していこうというものでございます。

続きまして、フォーラムの報告事項についてご説明をさせていただきたいと思っております。報告については2つでございます。

一つ目が、連携都市間の連携についてでございます。東日本連携・創生フォーラムの開催を契機に実施された事業のうち、前回のフォーラム以降に実施した事業について報告いたします。

資料記載のとおり7つの事業です。「信州上田に旅しちゃう？」といった事業であるとか、「那須塩原市サマーキャンペーン」、こういった7つの連携事業について、それぞれ実施した都市からご報告をいただきます。

次に、報告事項の二つ目でございますけれども、第3回フォーラム以降の取組状況についてでございます。これまでのフォーラムで実施していくことが決定した3つの事業について、その後の取組状況について報告いたします。

一つ目が商工会議所、商工会との連携についてでございますが、これらについては賛同していただいた9都市10団体による会議での検討状況について報告をいただきます。

また、二つ目でございますけれども、東日本連携推進協議会からの報告であります。東日本連携推進協議会では昨日行われましたパレスホテル大宮での東日本の食材を集めたガラディナーのほか、さまざまな催事あるいは事業を行っておりますので、それらについて報告をいただきます。

そして、3点目は（仮称）東日本連携支援センターについて、現在の状況について、さいたま市から報告をさせていただくこととなります。

最後に、フォーラム開催日の周辺で開催されます東日本連携都市が参加するイベントをご紹介します。10月27日に大宮区の区民まつりであります「大宮区民ふれあいフェア」をはじめ、「J:COM presents 2018 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」、また「BIZ SAITAMA さいたま市産業交流展2018」に東日本連携都市が出展をする予定となつ

ております。

結びに、東京オリンピックでは多くの選手や観光客が訪れることになりま
すので、世界中の方々に、さいたま市を含め、東日本の各地に行ってみたい、
そして大会後にはまた来たいと感じていただけるよう、フォーラムで議論し
たことを実行に移し、東日本の良さをアピールしていく必要があると考えて
おります。

その中で、さいたま市はそのネットワークの結節点として東日本のそれぞ
れの地域をしっかりとつないでいく、そんな役割を果たしていきたいと考
えております。

私からの説明は以上でございます。

議題 2 に関する質問

○ 読売新聞

市長からの説明について、質問がある社はお願いします。

私からよろしいでしょうか。クリテリウムに関してなのですけれども、A
S Oとの契約は2016年に3カ年で結ばれていると思うんですが、今後の
運営についてお聞かせください。

○ 市 長

クリテリウムの今後につきましては、現在民間移行といえますか、独立化
を図っていかうということ今検討を進めさせていただいています。その中
で、クリテリウムの受け皿ということでは、法人化されるさいたまスポーツ
コミッションを受け皿にしていくことがいいのではないかとということで検
討をしているところであります。今後の契約としては、移行した団体がそ
の契約の主体になると考えておりますが、それらについても今ASOと協議
している最中でございます。

幹事社質問：

①ラグビーW杯、2020年東京五輪を視野に入れた
外国人誘客の取組について

②生産年齢人口減少対策について

○ 読売新聞

ほかのご質問いかがでしょうか。

それでは、幹事社として代表質問させていただきます。質問は、2点ま
とめてさせていただきます。よろしく願いいたします。

1点目、ラグビーワールドカップ開催まで1年を切りました。2020年
東京五輪、パラリンピックもあと残り2年を切っているという状況です。そ

れを視野に入れたさいたま市としての外国人観光客誘致の取組についてお聞かせください。

2点目は、政府が今月初旬に内閣改造後初となる未来投資会議を開きまして、新たな成長戦略の議論を始めました。社会保障改革では企業の継続雇用年齢引き上げ、地方対策としては外国人労働者の活用などがポイントとして挙げられましたが、さいたま市としての生産年齢の人口減少、これに対する対策や見解をお聞かせください。

以上です。

○ 市長 それでは、幹事社からの質問に順次お答えします。

まず、1点目のラグビーワールドカップ、また東京オリンピック・パラリンピックに向けた外国人の観光客の誘致への取組についてお答えします。

2019年に開催されますラグビーワールドカップ、また2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けましては、外国人観光客のさらなる誘客プロモーション、またそれに対応して多言語化の推進、また受け入れ環境整備の支援などの取組を現在進めております。

まず、ラグビーワールドカップに向けてでございますが、埼玉県や会場であります熊谷市をはじめとした県内の他自治体と連携し推進してまいります。また、埼玉県を中心に、観戦に訪れる外国人観光客や海外メディアに対する各種プロモーションを検討しております。また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けましては、多言語によります観光情報を充実させ、本市の魅力を効果的に外国人観光客や海外メディアに発信したいと考えております。

また、先ほどの議題でも触れましたけれども、東日本の連携自治体と連携しまして、本市への誘客はもとより、東日本連携広域周遊ルート事業の認知度を高めるプロモーションについてもさらに検討を進めてまいりたいと思います。

そのほか案内サイン等の多言語表記の推進、また市内事業者における多言語化あるいはWi-Fi環境の整備、またキャッシュレス決済環境の整備など、外国人観光客に対する受入環境をより充実させる支援も推進していきたいと考えております。

今後も本市だけでなく、埼玉県や東日本の連携自治体とも協力しながら、

ラグビーワールドカップ、または東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた外国人観光客にとって魅力ある誘客のための取組を推進していきたいと考えております。

二つ目でございます。生産年齢人口の減少へ向けての対策、そしてまたその見解でございます。まず、本市における生産年齢人口の現状と推計からお話ししますが、本市の生産年齢人口は平成27年の国勢調査で81万人でございます。この推計が今後は2025年ごろに81万7,000人をピークにして減少に転じる見込みとなっております。

日本全体としては、既に生産年齢人口は減少局面に入っていますが、その中で、政令指定都市の中で本市と川崎市と福岡市の3市だけがこの2025年まで増えていくということで、それ以外の都市については既に生産年齢の減少局面に入っています。本市も途中まで下がってきていたのですが、28年ぐらいから少し上昇に転じてきている状況がございます。

本市では一億総活躍社会の実現に向けて、現在生産年齢にありますが人の生産性の向上であるとか、また個人の実情に応じた多様な就業機会の提供に資する各種取組を既に実施してきております。

北浦和駅東口直近の「ワークステーションさいたま」では、子育て世代等を対象としまして、就職までの支援をワンストップで実施しております。特に女性のM字カーブの状況がございますので、それを緩やかにして、子育て中の女性の方々にも積極的に就労をサポートしています。

またソニックシティにおきましては、「地域若者サポートステーションさいたま」を設置しまして若者無業者等を対象とした各種職業的自立支援を実施しております。また、中高年や女性の求職者、また安定した仕事に就けずにいる若年者等を対象にしまして、座学研修あるいは職場実習を組み合わせた就労支援を現在実施しております。

今後の取組としては、PDCAサイクルに基づく事業の改善や見直しを図りながら、より効果的な事業を継続して実施していきたいと考えております。また、社会保障費の抑制や人手不足緩和等を目的としました国の65歳以上への継続雇用年齢引き上げに関する制度設計の進捗状況を見ながら、本市としての施策についても検討していきたいと考えております。

また、国の外国人労働者を受け入れる新たな在留資格創設に向けまして、

外国人が活躍しやすい環境整備の進捗状況を見ながら、本市としての施策を検討していきたいと考えております。

以上でございます。

- 読売新聞 ありがとうございました。代表質問の説明に関して質問がある方はお願いいたします。よろしいでしょうか。
それでは、ほかに質問がある方はお願いします。

その他：風疹対策について

- 朝日新聞 朝日新聞ですが、風疹について質問します。
風疹の患者が大変増えているという話がありまして、千葉市などは風疹予防に向けて、抗体検査を受けるよう、無料で受けられる方を配偶者などに拡大するなど先手先手の策を打っておりますけれども、さいたま市というのはその辺はいかがでしょうか。

- 市長 現状としては、まだ風疹の予防あるいは対策については、まだ検討中という状況で、具体的にこういう対策をとるところまでいっておりません。
ただ、昨今非常に風疹の患者が周辺自治体も含めて増えているということは聞いていますので、今後検討していきたいと考えております。

- 朝日新聞 周辺のそういう自治体が、先手でいろんな策を打とうとしているということは、市長の耳にはきちっと市の部署から入っているのでしょうか。

- 市長 少し早い時期では一旦受けたのですが、そのときはまださいたま市は必ずしも風疹の患者は多くないという状況がありましたので、一旦その風疹について検査を受けていただくという取組をしたところですが、現時点ではまだ今年度もさらにそういった取組をしていくことについては、担当からまだ来ていないという状況でございます。

(本市においては、すでに平成25年度から、配偶者だけでなくパートナーも含めた風疹の抗体検査を実施している。現在のところ、それ以上の拡大策については、国から特に通知が届いておらず、本市独自の取組の具体策については考えていない。) (会見後補足)

その他：市内建設会社の倒産等による影響について

- 朝日新聞 あと、さいたま市の建設会社のエム・テックが倒産いたしました。埼玉県内でも最大の今年の倒産ということで、いろいろ指名停止受けたり、そういった問題もある企業であったかと思いますが、さいたま市としてその影

響とか、受け止めあたりをお聞きしたいと思います。

- 市長 エム・テックの倒産につきましては、現在民事再生法の手続を開始したと10月2日に担当から説明を受けたところでございます。株式会社エム・テックからは、口頭によって契約中工事の継続意思は示されているものの、工事継続に向けた詳細な工事工程などがまだ提出をされておられません。そのため早急な提出を求めているところと聞いております。今後の対応については、提出された書類をもって判断をしていきたいと考えております。
- 朝日新聞 今エム・テックとの契約で発注している工事というのはどのくらいあって主なのはどういうものでしょうか。
- 市長 4件あります。そのうち2件が教育委員会に関わるものでございます。
- 朝日新聞 そうすると、工事の期間の延長などの影響ということは、これから見極めていくということですか。
- 市長 そうですね。特に教育委員会に関するものについては、学校の工事がございますので、何とか間に合うように、できることを進めていきたいと考えておりますが、現時点では先ほど言いましたように工事の工程等について、まだ計画などが提出されておられませんので、それを受けてということになりますけれども、情報収集しながら、しっかりとどのような影響があるのか、そういったことを踏まえながら検討を開始しているところでございます。

その他：消費税率10%への引き上げについて

- テレビ埼玉 テレビ埼玉です。

消費税率についてお伺いします。安倍総理が来年10月、予定どおり10%に引き上げる考えを示したことに対して、市長の受け止めとお考えをお聞かせください。
- 市長 消費税10%の導入については、予定された期間よりも延期されて、来年10月ということに現時点ではなっているわけでございますけれども、これに向けてさまざまな子育て支援施策も含めて、それを財源にしてやろうという施策がかなり出てきておりますので、やはりそういったものがしっかりと進んでいくためにも、消費税の増税は必要であるのかなと考えています。

今後、そのためにはいろいろな準備が必要になってまいりますので、その中で粛々とその準備をしていかなければならないと考えております。
- テレビ埼玉 では、市長はその表明したことについて、歓迎というか、どういう立場を

とられますか。

- 市長 基本的にはそれが前提ということで進んできておりますので、当然それが実施されてくるものと認識をしているところです。

その他：レジ袋の有料化の義務づけについて

- 時事通信 時事通信と申します。
今世界的に問題になっていきますプラスチックごみの問題に関連するんですが、環境省がレジ袋の有料化について、スーパーなど小売店ですとかに義務づける方針等を示されましたが、さいたま市としてのその受け止めであったり、もしくは今後取り組む、もしくは取り組まれる何か予定等がありましたら教えていただけたらと思います。

- 市長 現時点では、レジ袋の有料化についてのさいたま市としての取組について、まだ十分精査をしておりますけれども、やはりごみの中にレジ袋がたくさん含まれていますので、そういう意味ではごみの縮減にもつながることだと考えておりますが、それを受けて、市としてどのような対応をしていくかについては、今後環境省の取組状況を踏まえながら検討していきたいと考えております。

- 時事通信 何か現状、今ごみを削減する取組みたいなものは何か。

- 市長 市としては、特に生ごみですね。あと、濡れたままで出されることによって熱効率が悪くなるとか、量が多いという状況がございますので、会合等の最初と最後の30分間は、できるだけ食品のロスをなくしていくための食べる時間をつくっていただくとか、どちらかという食品ロスの部分を今中心的にやっていると認識しております。

その他：偽造運転免許証による不動産不正売却に伴う損害賠償請求について

- 読売新聞 よろしいでしょうか。
13日に土地登記の関連でさいたま地裁の判決が、市に対して715万円の支払いを命じたものですが、こちらが確定をいたしました。これに対する受け止めをお願いいたします。
- 市長 本市としては、この裁判所の判断を重く受け止めまして、これを受け入れる方向としております。
- 読売新聞 再発防止ですとか、今後考えられている対応はいかがでしょうか。

- 市 長 再発防止につきましては、運転免許証の識別について既に新しいルールを設けて、マニュアル等の整備を行いました。そして、こういった業務上のルールあるいはプロセスをしっかりと職員の皆さんにも徹底していただき、これを再発防止につなげていきたいと考えております。
- 読売新聞 そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
どうもありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。
- 進 行 それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
なお、次回開催は11月8日木曜日、13時30分からを予定しておりますのでよろしくお願いいたします。
本日はありがとうございました。

午後2時14分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。